



宗教法人日本キリスト教団片瀬教会付属
片瀬のぞみ幼稚園
Katase Nozomi Kindergarten

片瀬のぞみだより

2018年6月号

家庭通信 2018 No.

2018年6月主題聖句

「空の鳥をよく見なさい。」

(マタイによる福音書6章26節)

牧師(設置者) 磯部理一郎

今月6月の保育主題は、新約聖書のマタイによる福音書6章26節の聖書のことばによるものです。保育の主題をより豊かに理解していただくため、その前後の文脈をあわせてご紹介いたします。

6:25 「だから、言うておく。自分の命のことで何を食べようか何を飲もうかと、また自分の体のことで何を着ようかと思ひ悩むな。命は食べ物よりも大切であり、体は衣服よりも大切ではないか。26 空の鳥をよく見なさい。種も蒔かず、刈り入れもせず、倉に納めもしない。だが、あなたがたの天の父は鳥を養ってくださる。あなたがたは、鳥よりも価値あるものではないか。27 あなたがたのうちだれが、思ひ悩んだからといって、寿命をわずかでも延ばすことができようか。28 なぜ、衣服のことで思ひ悩むのか。野の花がどのように育つのか、注意して見なさい。働きもせず、紡ぎもしない。29 しかし、言うておく。栄華を極めたソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾ってはいなかった。30 今日^は生えていて、明日は炉に投げ込まれる野の草でさえ、神はこのように装ってくださる。まして、あなたがたにはなおさらのことではないか、信仰の薄い者たちよ。31 だから、『何を食べようか』『何を飲もうか』『何を着ようか』と言って、思ひ悩むな。32 それはみな、異邦人が切に求めているものだ。あなたがたの天の父は、これらのものがみなあなたがたに必要なことをご存じである。33 何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる。34 だから、明日のことまで思ひ悩むな。明日のことは明日自らが思ひ悩む。その日の苦勞は、その日だけで十分であ

る。」

こうして、聖書をきちんと読んでみますと、実は、空の鳥や野の花を観察して発見する心を伝えようとしているではありません。イエスさまが、こどもたちに求めておいでなのは、観察心よりも、どちらかと言えば、神さまに心に向けられるこどもになって欲しい、そうすれば、神の豊かな愛も恵みも分かるようになり、心配や思い悩みではなく、安心平安に成長することができますよ、と教えておられるように思います。だから、あなたのことはすべて分かって下さっているので、心配して思い悩むのではなく、何よりも神の国と神の義に心に向けて、生きることを考えましょう、とお教えになっています。

教育の目的は「人格の完成」(教育基本法)にあります。人が《全く人らしい人格として》自己実現する、そのために人々は学び、また教育を受ける権利を有する、ということだと思えます。イエスさまが求め教えた「神の義」でした。神の義とは、神さまに祝福され恵み豊かにされる関係の中で、永遠の命と欠けない人格に完成することを意味します。旧約聖書の言葉では「シャローム(平和)」という言葉とも重なります。つまり人格の中核すなわち、まず《こころ》の中に、完全絶対の平和と平安を神さまからいただくことを、生きる原点にしていきましょう、という意味です。もう少し踏み込んで表現すれば、神さまを信頼して、完全究極の平安を信じ求めてこそ、人である自分自身も安心して、生きる覚悟もできてくる、と言ってもよいと思えます。

そうなのです。まずこどもの心に安心と平和を打ち立てられること、しかもそれは全知全能の神がまず安心の心をお造りくださる、ということになります。平安と安心の中で、初めて人は、人の尊厳を豊かに守ることができます。安心であれば、人を心から受け入れ、助け、愛することができます。時には不安と恐怖に支配され、自己を守ろうと、他者と争い、傷つけ、受け入れたり愛したりすることができなくなります。嘘や盗みが生まれ、ついには人殺しが起こってしまいます。まず神の義を求めること、まず神さまがお与えくださる命と人格に、平和と平安、安心の心をしっかりとうち立てることが大切ではないでしょうか。心の中に神の愛と平和が広がると、尊厳と愛と希望に溢れます。思い悩みは、往々にして、過剰防衛となり、構造的な他者排撃の形を自己に強めます。それは決して人としての幸いをもたらしません。人が〈人でなし〉に転落する背景に、常に平安が奪い去られてしまうからです。この完全絶対な神からの平安を、聖書は《神の義》—少々頑迷古老に聞こえる言葉ですが—と表現しました。

こども自身も、また子育てという重責を担う家庭も、不安や恐れの中で、我を忘れてしまうことも、時に起こるかも知れません。しかしながら教育の中心は、あくまでも安全安心です。神さまが保証してくださる究極の平和によって、安心の心をまずしっかり心の内に立てたうえで、人としての尊厳や誇りを守り、正義と公正、愛と信頼に基づき、そのあとで必要可能な道筋を考えてゆけばよいではないか、ということになるのではないのでしょうか。鳥は耕すことはできませんが、空高く飛翔

することができます。花は空を飛ぶことはできませんが、誰もの心を打つ美し花を咲かせることができます。既に神さまが添えてまた備えてくださる、それぞれの恵みがあるはずです。鳥は花を、花が翼を求めるように、ないものに憧れる気持ちも素晴らしいことだと思いますが、それ以上に、鳥は翼を、花は花を誇りとする尊厳は重く大きいと思います。教育も今あれこれとえり好みをする前に、先ずは、無限に輝く世界でたった一つの天性の輝きを、感謝と平安のうちに見出し見つめ、誇りと希望と勇気をもって、今日の恵みと喜びに生きることにあるように思われます。多くの思い煩い、不安や苦悩は、人生につきものです。しかし同時に平安もまた、わたくしたちの内に、豊かに与えられることも、大きな支えであります。